

## 2. 美乃坂本駅周辺の概要

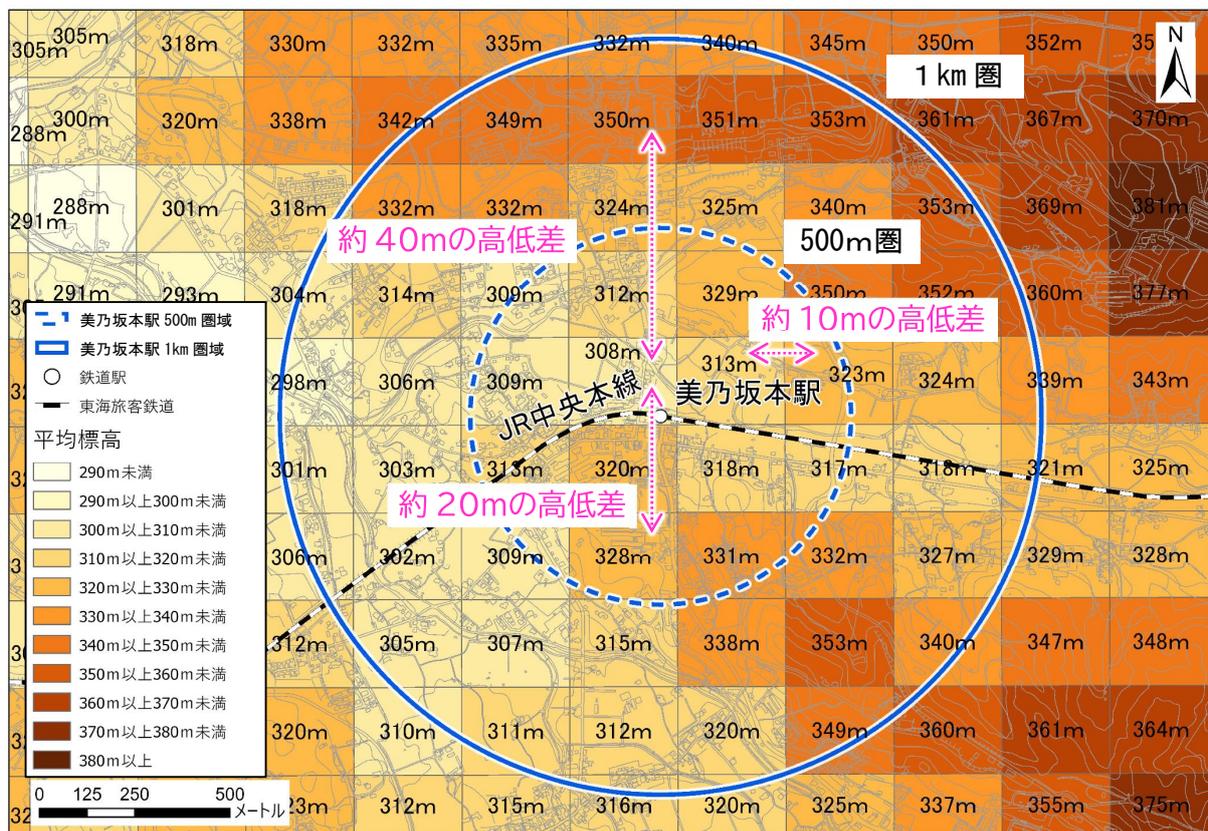
### 2-1 現地状況

#### (1) 地勢

美乃坂本駅周辺の標高について、250m四方の平均標高を数値で示し特徴を整理します。

美乃坂本駅を中心とした高低差に着目すると、標高は約310mとなっており、北側と比較して約40m低く、南側と比較して約20m低くなっているため、南北方向に大きな高低差が確認できます。また、東西方向については比較的緩やかな高低差となっていますが、一部で隣接するところでは、約10mの高低差が確認されます。

そのため、美乃坂本駅周辺の現地状況（高低差）に配慮した重点整備地区の設定が求められます。



資料：国土数値情報ダウンロードサービス

図 美乃坂本駅周辺の標高

(参考) 徒歩圏域の考え方について

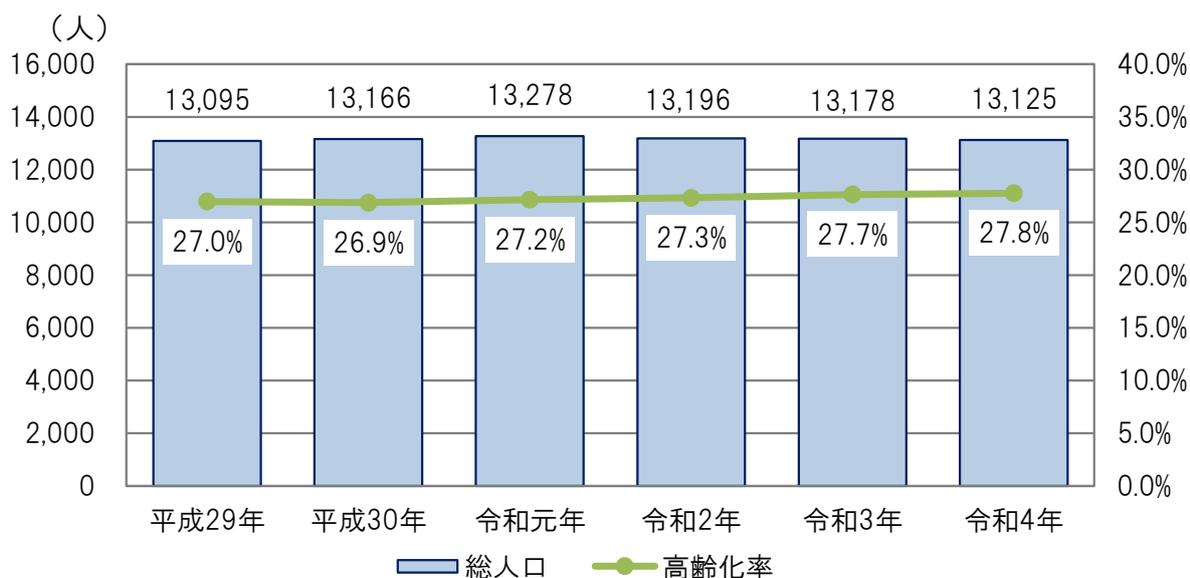
バリアフリー基本構想で定める重点整備地区の範囲は、徒歩圏域1km(概ね400ha未満)が目安となっています。なお、美乃坂本駅周辺では、1km圏で南北に高低差が大きい地勢であるため、徒歩圏域は500m圏を目安として整理します。

## 2-2 人口及び高齢者人口、障がい者の状況

### (1) 人口及び高齢者人口の状況

坂本地区の人口は約13,000人となっており、2017年（平成29年）以降、横ばい傾向となっています。一方で、高齢化率は2018年（平成30年）以降微増が続いており、2022年（令和4年）時点で高齢化率は27.8%となっています。

そのため、坂本地区は今後も増加が想定される高齢者に対するバリアフリー化の対応も求められます。

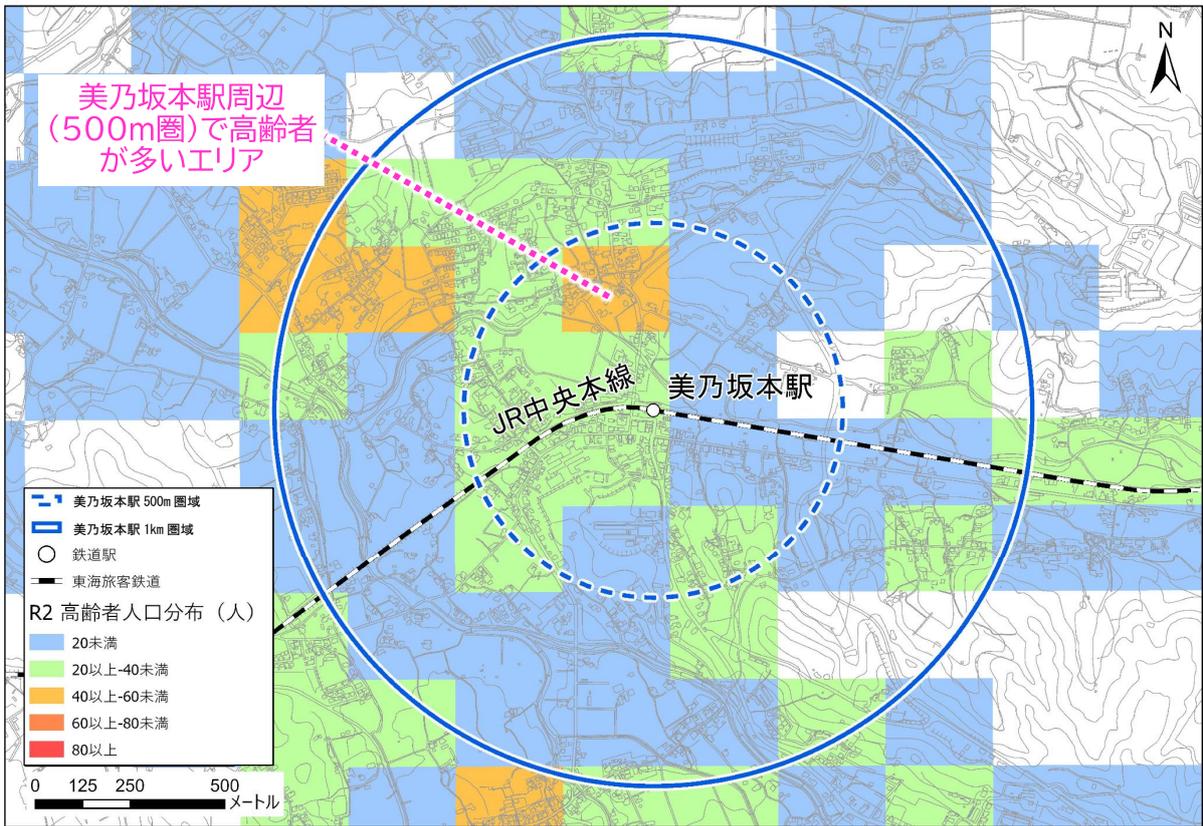


資料：中津川市資料

図 坂本地区の人口と高齢化率の推移

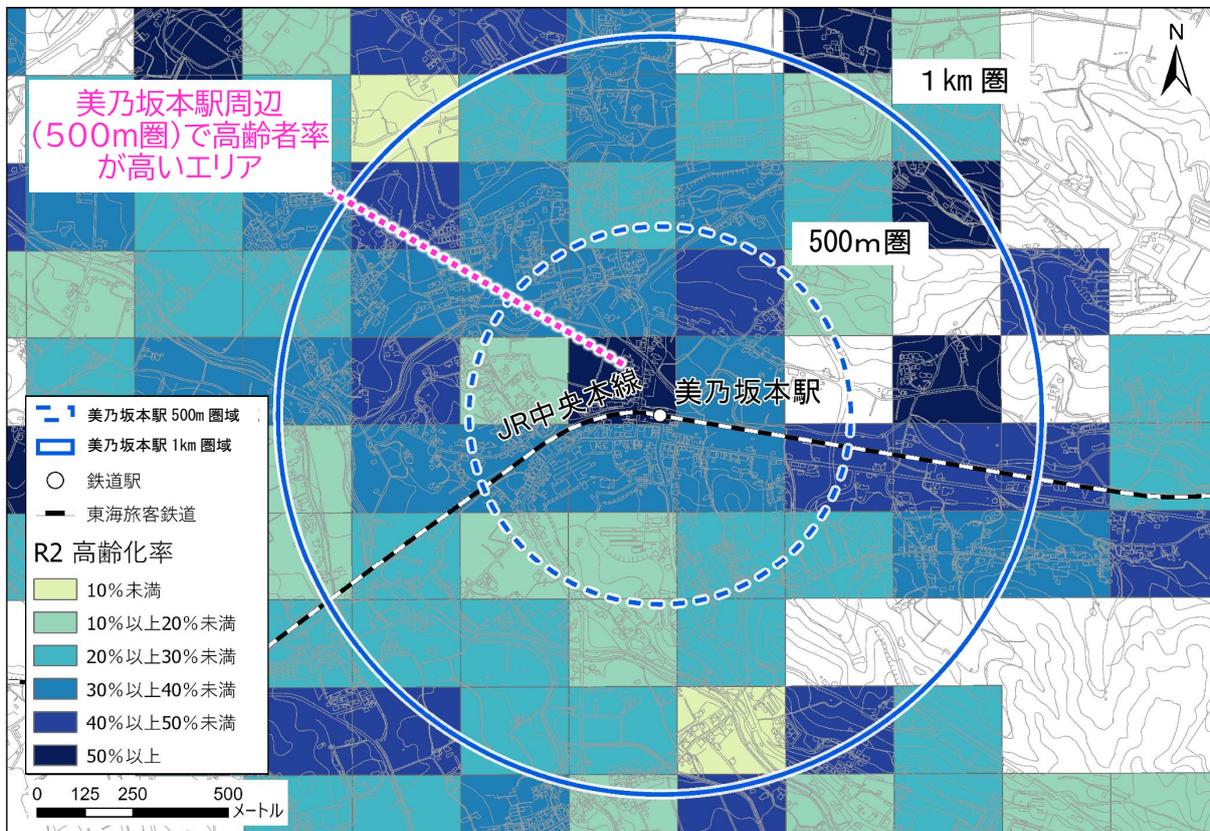
また美乃坂本駅周辺の高齢者人口分布、高齢化率について、美乃坂本駅を中心とした徒歩圏域に着目して現状を把握すると、美乃坂本駅周辺で高齢者人口が多いエリアや2022年（令和4年）の坂本地区の高齢化率（27.8%）より高い30%以上のエリアが見られます。

そのため、美乃坂本駅周辺に居住する高齢者に配慮した歩行環境への改善が求められます。



資料：2020年（令和2年）国勢調査

図 美乃坂本駅周辺の高齢者人口の分布



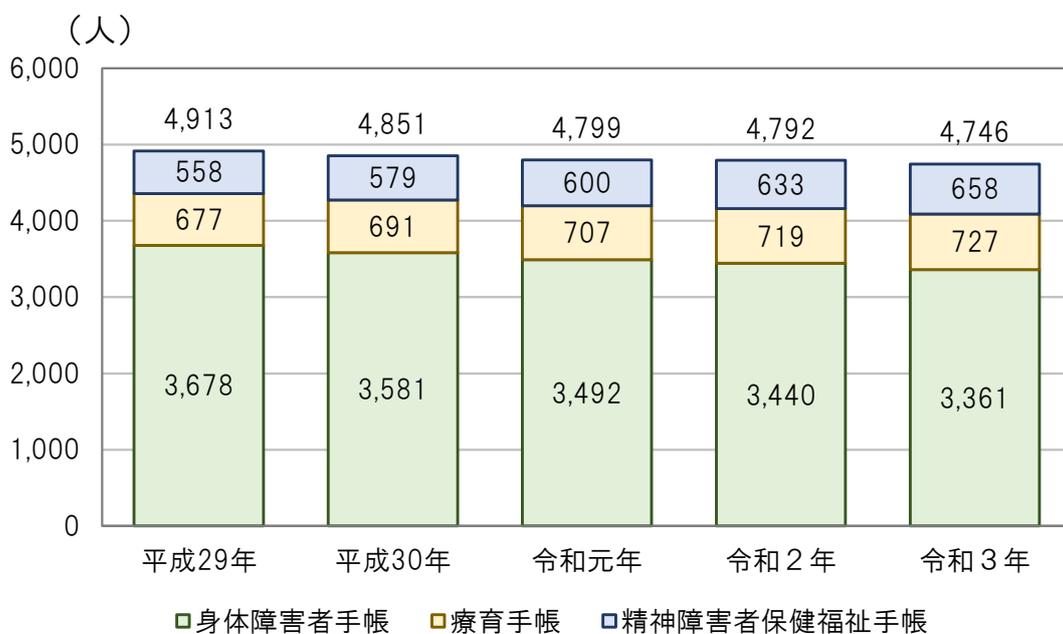
資料：2020年（令和2年）国勢調査

図 美乃坂本駅周辺の高齢化率

## (2) 障がい者の状況

市内の障害者手帳所持者数は減少傾向にありますが、減少しているのは身体障害者手帳所持者であり、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の所持者数は増加傾向となっています。

そのため、バリアフリー化の検討では、身体に関するバリアに対する検討だけでなく、心身両方に関するバリアに対する検討も行っていくことが求められます。



資料：2021年度（令和3年度）版中津川市統計書

図 中津川市の障害者手帳所持者数の推移

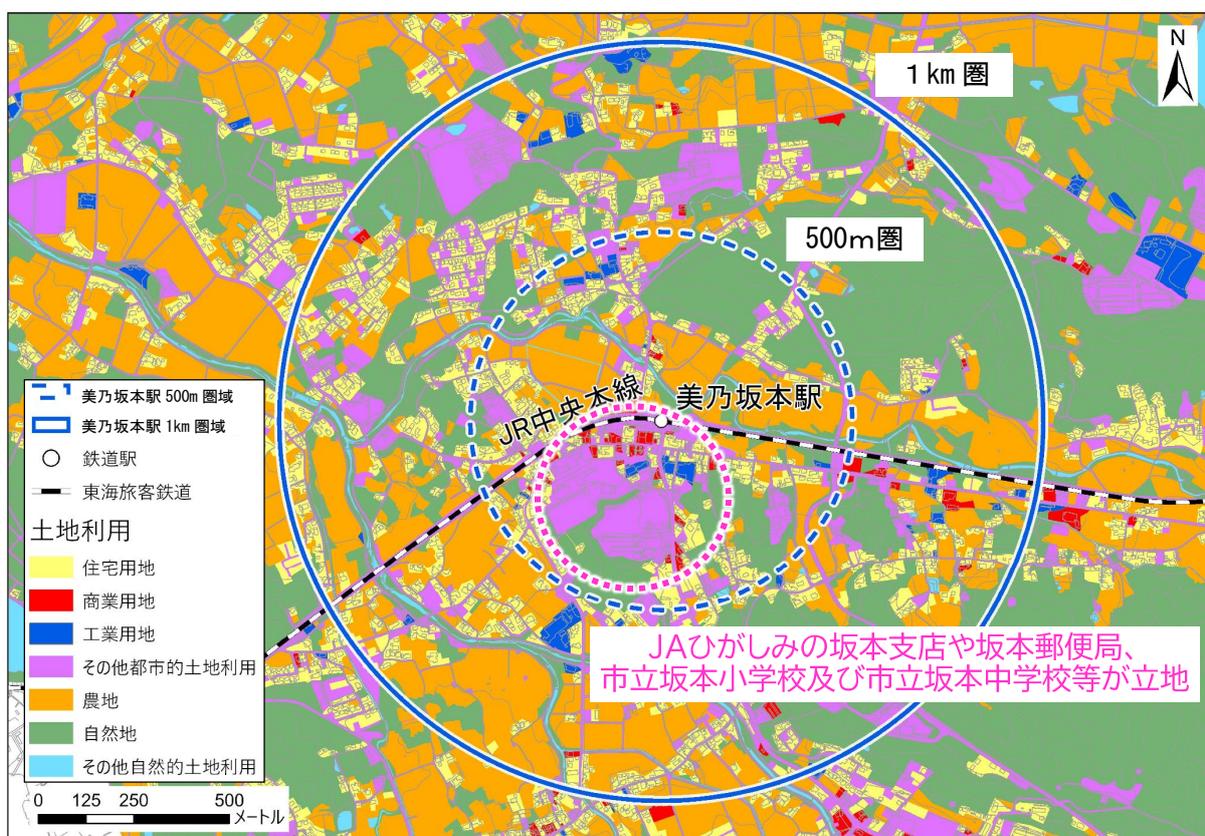
## 2-3 土地利用及び建物用途の状況

### (1) 土地利用の状況

美乃坂本駅周辺の土地利用の状況について、「住宅用地」が点在する状況となっており、多くが「農地」や「自然地」となっています。

一方で、美乃坂本駅周辺の南側に着目すると、JAひがしみの坂本支店や坂本郵便局、坂本小学校及び坂本中学校等が立地しています。

そのため、美乃坂本駅周辺の南側の土地利用を踏まえた生活関連施設、生活関連経路の設定が求められます。



資料：2018年（平成30年）都市計画基礎調査

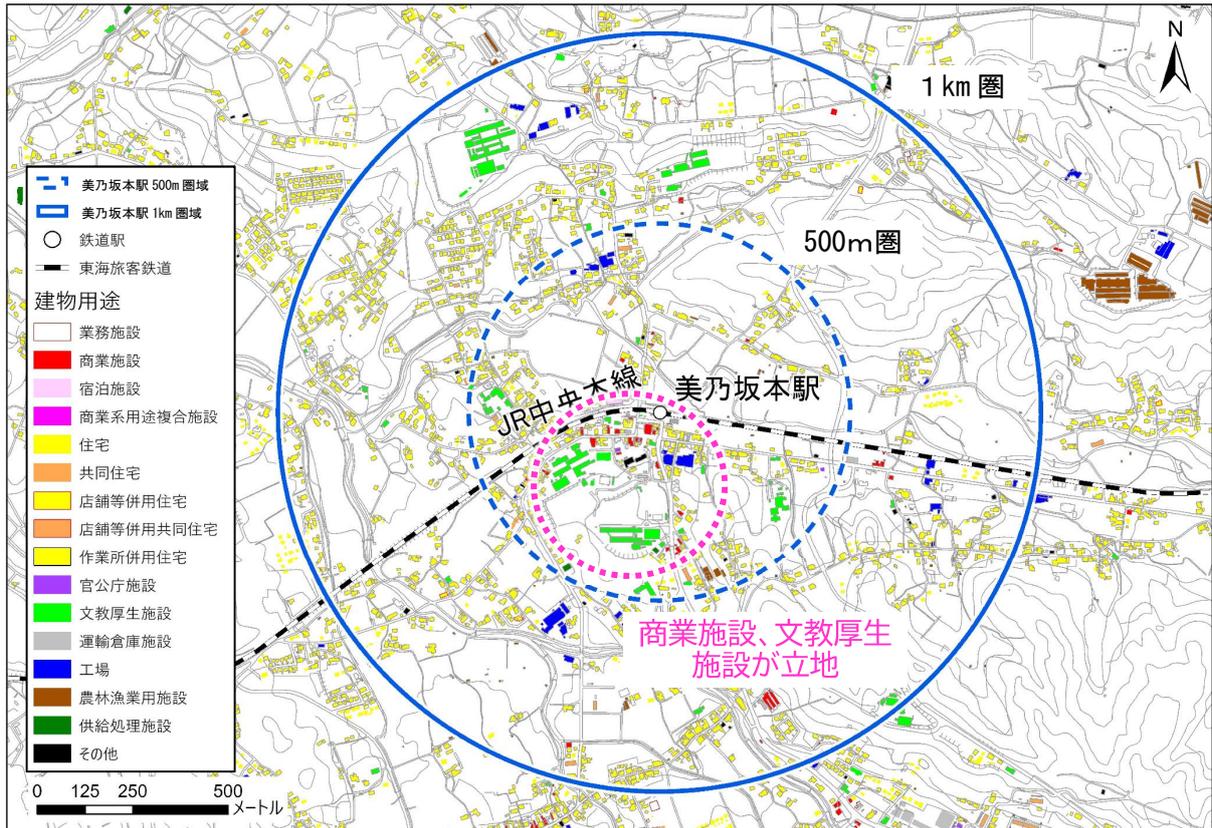
図 美乃坂本駅周辺の土地利用現況

## (2) 建物用途の状況

美乃坂本駅周辺の建物用途について、住宅用途の建物が多くあることが確認できます。

一方で、美乃坂本駅南側に着目すると、住宅用途のほかに商業施設、文教厚生施設が立地しています。

そのため、美乃坂本駅周辺の南側の建物用途（商業施設、文教厚生施設）を踏まえた生活関連施設、生活関連経路の設定が求められます。



資料：2018年（平成30年）都市計画基礎調査

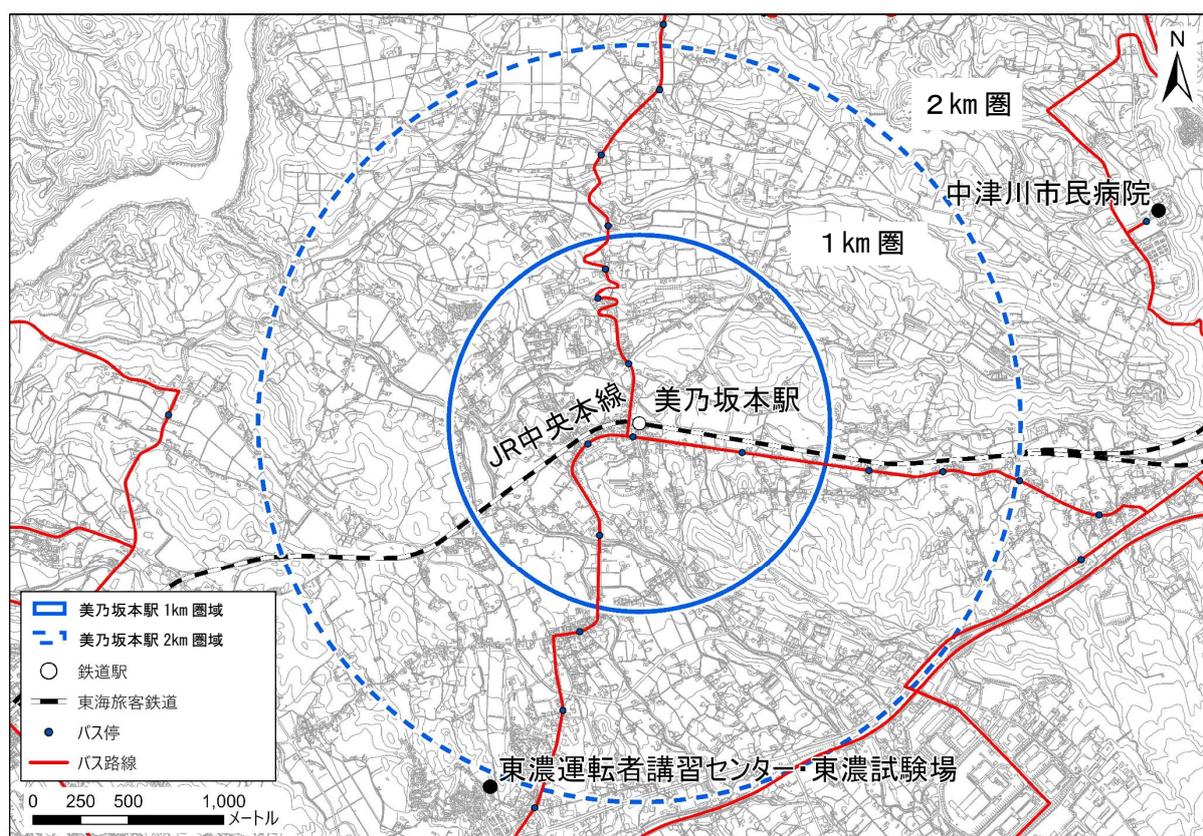
図 美乃坂本駅周辺の建物用途

## 2-4 公共交通の利用状況

### (1) 公共交通の整備状況

美乃坂本駅は名古屋駅ー中津川駅の快速列車停車駅となっています。

バス路線は、北恵那交通の坂本三坂線、恵那線が美乃坂本駅に接続しています。坂本三坂線は中津川駅から美乃坂本駅を經由し、東濃運転者講習センター・東濃試験場を連絡するバス路線となっています。また、恵那線は中津川駅から中津川市民病院を經由し、美乃坂本駅まで運行しているバス路線となっています。



資料：中津川市資料

図 美乃坂本駅周辺の公共交通の整備状況

## (2) 公共交通の利用状況

### ① 鉄道

2021年度（令和3年度）の美乃坂本駅の日当たり利用者数は、2,191人/日となっています。バリアフリー法に基づく基本計画における次期目標※では、重点整備地区内の生活関連施設に位置づけられた2,000人以上/日の鉄道駅は原則100%バリアフリー化することとしていることから、美乃坂本駅を生活関連施設として位置づけるとバリアフリー化が求められることとなります。

美乃坂本駅の利用者数の推移は、2019年度（令和元年度）までは横ばい傾向にあったものの、2020年度（令和2年度）以降、大きく減少しています。

また、2020年度（令和2年度）から2021年度（令和3年度）の非定期利用者の増加に着目すると、定期利用者の増加率（約4%）よりも割合が高く（約14%）なっています。

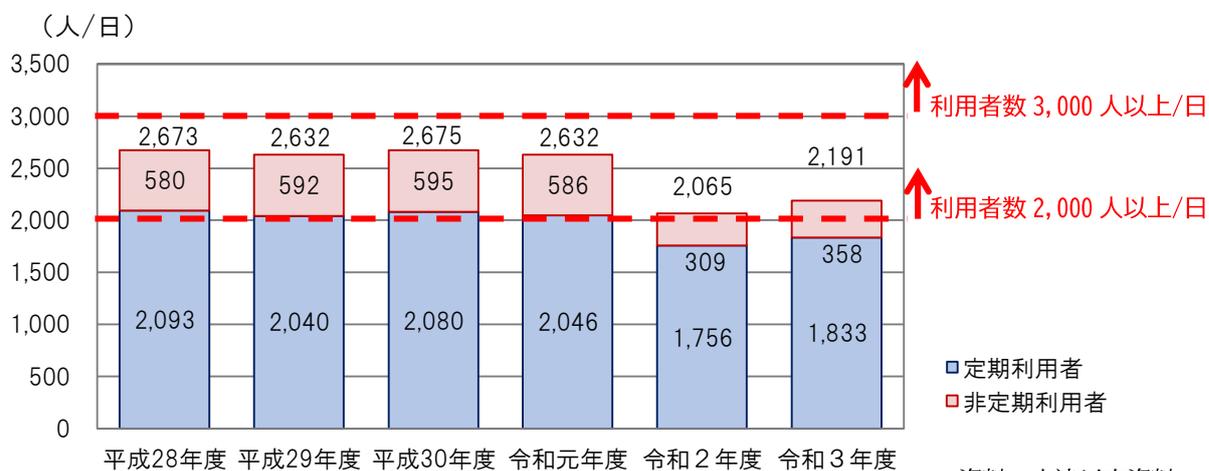


図 美乃坂本駅の利用者数の推移

(参考) 鉄道駅に関する次期目標について

国土交通省の「バリアフリー法に基づく基本方針における次期目標」では、バリアフリー基本構想の重点整備地区内の生活関連施設に位置づけられた鉄道駅について、2025年度（令和7年度）末までの目標として利用者数（乗降客数）が2,000人以上/日の場合はバリアフリー化するとしています。

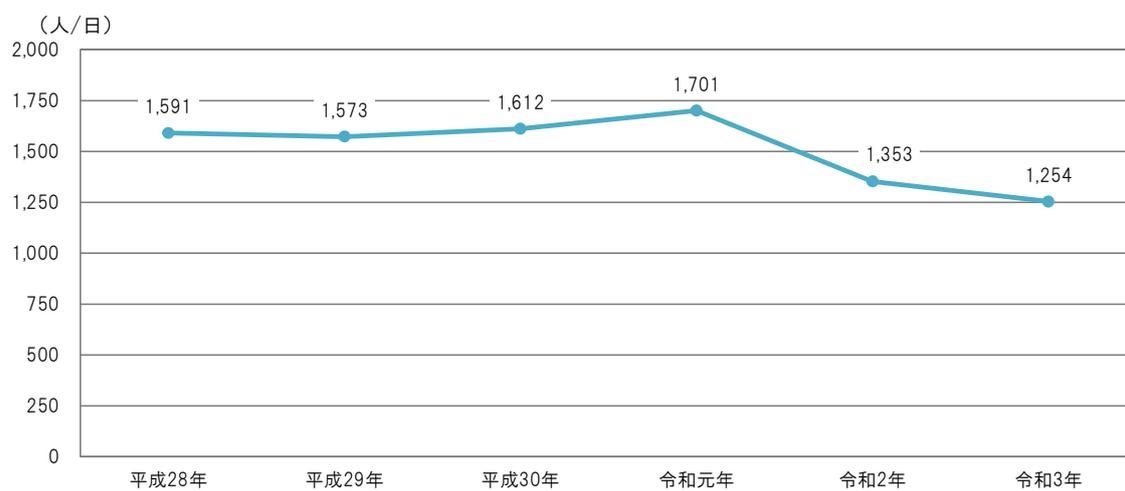
		2025年度（令和7年度）末までの目標
鉄道駅	段差の解消	<p>○バリアフリー指標として、案内設備（文字等及び音声による運行情報提供設備、案内用図記号による標識等）の設置を追加</p> <p><u>○3,000人以上/日の施設及び基本構想の重点整備地区内の生活関連施設に位置づけられた2,000人以上/日の施設を原則100%</u></p> <p>○この場合、地域の要請及び支援の下、鉄道駅の構造等の制約条件を踏まえ可能な限りの整備を行う</p> <p>○その他、地域の実情にかんがみ、利用者数のみならず利用実態をふまえて可能な限りバリアフリー化</p> <p>※高齢者、障害者等に迂回による過度の負担が生じないように、大規模な鉄道駅については、当該駅及び周辺施設の状況や当該駅の利用状況等を踏まえ、可能な限りバリアフリールートの複数化を進める</p> <p>※駅施設・車両の構造等に応じて、十分に列車の走行の安全確保が図れることを確認しつつ、可能な限りプラットホームと車両乗降口の段差・隙間の縮小を進める</p>
	視覚障害者誘導用ブロック	
	案内設備	
	障害者用トイレ	
	ホームドア・可動式ホーム柵	

資料：バリアフリー法に基づく基本方針における次期目標

## ② バス

北恵那バスの利用者数の推移は、2019年度（令和元年度）は1,701人/日の利用があったものの、2020年度（令和2年度）以降、大きく減少しており、2021年度（令和3年度）では1,254人/日となっています。

このことから、直近のバス利用者は減少傾向にあります。



資料：中津川市資料

図 市内の北恵那バスの利用者数の推移